

巻頭言

積読する本の森

龍谷大学長 安藤 徹

追われるように過ごす日々のなかで、無性に読書を楽しむみたくなることがある。さまざまな本から学び、考える時間を持ちたいと強く思うときもある。そして、本を入手する。むろん、昂ぶる心は1冊で満足するはずもなく、知らぬ間に本は増殖していく。しかし、すべてを読み切るには、毎日があまりにせわしく、人生が絶望的に短すぎる。こうして読まない本たちが溢れ、あちこちに積まれていく。いわゆる「積読(つんどく)」である。

龍谷大学図書館は、永田希『再読だけが創造的な読書術である』を所蔵しているいっぽうで、同じ著者による『積読こそが完全な読書術である』がない。同書が指摘する、積読の醸し出す「うしろめたい」ニュアンスが影響したわけではなからう。とはいえ、蔵書の積極利用を促したい図書館からすると、一見して書架に並べにくい本ではある。しかし、長田弘『読書からはじまる』（深草／瀬田図書館所蔵）が言うように、「大学が誇るすばらしい図書館とは、ほとんどだれも読まない本がたくさんある図書館」だとすれば、大学図書館における理想の読書術は積読になる。

たしかに、本学図書館が所蔵する240万冊ほどの本の大半は「ほとんどだれも読まない本」だ。それだけ切り取れば、いかにも無駄である。ただし、本はとても不思議な存在で、使わない洗濯機や自動車とちがい、読まれない本がたくさん並んでいることに意義があり、読まなければ読まないほど価値がある、と長田は主張する。そもそも、「読む(べき)本」が「本のぜんぶ」なのではない。むしろ、「読まない本をどれだけもっているか」によって、深い「本の文化」が育まれるかどうかが決まる、とも言う。



「読まない本」とは「今の私が読まない本」の意だろう。「今、目の前にある本は、たまたま目の前にある」にすぎず、その背後には多様性と可能性に満ち、過去にも未来にも開かれた、深遠な森が広がる。そうした世界を物理的な空間として体現するのが、未来の私、あるいは私ではないだれかが読むかもしれない大量の本たちを積読している図書館である。

ちなみに、福嶋亮大『思考の庭のつくりかた』（瀬田図書館所蔵）は、本を積む前にパラパラとめくり、わずかでもメタデータを把握しておくことが大事だと指摘する。私が積読していた『積読こそが完全な読書術である』を思い出したのも、帯や目次には目を通していたからである。図書館であれば、本の森をブラウジングしながら書架に並ぶ本の背表紙と出会うだけでも十分に意味がある。

Ryukoku University Library News



龍谷大学図書館報 来・ぶらり

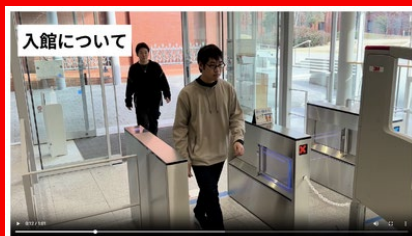
CONTENTS

TOPICS

- 01 巻頭言
- 02 TOPICS
- 03 学生に薦めたいこの一冊
- 04 大宮図書館特別展観
- 05 ライブラリーサポーターこの一年
- 06 2025年度後期展観紹介

図書館利用者教育について

図書館では、図書館利用者教育として、オリエンテーション動画の公開、ゼミ単位・自由参加の情報検索講習会、図書館ツアーを実施しています。動画では図書館利用の基本を説明しています。動画を踏まえて各講習会に参加していただき、図書館の利用（情報検索等）のレベルアップを図ることができます。図書館で実際に本を探す方法や、学内や自宅など、自分の好きところで利用できるデータベース等のサービスについても紹介・説明していますので、ぜひご参加ください。



図書館オリエンテーション動画（抜粋）

学生に薦めたいこの一冊

『日本漢語と中国：漢字文化圏の近代化』

鈴木修次[著]. -- 中央公論社, 1981.

深草図書館：文庫・新書 081/チュウ/626

資料番号：18741305731

「権利」「義務」、「科学」「真理」、「宗教」「自由」等の言葉は、明治の日本人が異質のヨーロッパ文明を導入するために工夫した「新漢語」である。本書は、これらの日本漢語が、逆に漢字発祥の国である中国に輸出され、中国語の語彙となって活用されていることを明らかにしている。

「宗教」は、元来仏教語であったが、明治初期にreligionの訳語として使用され、次第に社会に定着することによって、諸「宗教」の一つとしての「仏教」が生まれたとも言える。日本語の語彙の意味変遷を考える上で興味深い視点を提供している。

文学部 教授
三谷 真澄



『海を抱いて月に眠る』

深沢潮[著].-- 文春文庫,2021.

深草図書館：深草.和顔館開架2F 913.6/フウウ

資料番号：12500040631

在日という言葉は、使い方次第で適切かどうか分からない言葉だ。仕事柄、そのような背景があるだろう人々と話をする機会が幾度もあり、文徳允のような父親はたくさんいるようだと感じている。本書は、比較的わかりやすく、今の若い人たちにも伝わりやすく書かれている。韓流が流行っている一方で、このような背景を知らない人が多いだろう。大げさな話かもしれないが、日本と韓国の架け橋となる1冊と思って手に取っていただきたい。

心理学部 教授
赤津 玲子



『二十歳(はたちの)ころ：立花ゼミ『調べて書く』共同製作』

立花隆, 東京大学教養学部立花隆ゼミ[著]. -- 新潮社,1: 1937-1958, 2: 1960-2001.

深草図書館：深草.文庫・新書 F/18

資料番号：10110056708、10110056710

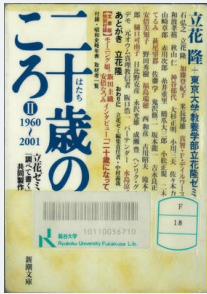
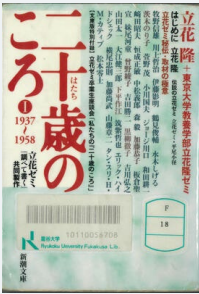
瀬田図書館：瀬田.本館B1開架 281.04/タタハ

資料番号：30600001295、30600001307

この本は、東大教養学部の立花ゼミ生達が、気になった大人達の「二十歳のころ」についてインタビューした内容をまとめたものです。2巻あり、それぞれ1937-1958年、1960-2001年に二十歳のころを過ごした大人達のお話が載っています。どんな大人達がインタビューを受けているかは読んでみてからの楽しみです。

一言で「二十歳のころ」と言っても時代や立場が異なれば、過ごす人生も異なります。この本を通じて、いろいろな人生にぜひ触れてみてください。

経済学部 准教授 久保 利久



『百年の孤独』

文庫版：G・ガルシア=マルケス[著]；鼓直訳.-- 新潮社, 2024.

深草図書館：深草.文庫・新書 F/18

資料番号：12400014705

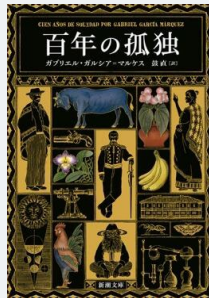
単行本版：ガブリエル・ガルシア=マルケス[著]；鼓直訳.-- 新潮社, 2006.

瀬田図書館：瀬田.本館B1開架 963/カカオ/4

資料番号：32005029790

20世紀文学最高傑作の一つが2024年に文庫になって手に取りやすくなった。同じく2024年から某有名動画配信サイトでドラマ化もされており、観た人もいるかもしれない。だがそれを観た人も観ていない人も、是非ともこの原作を読んで、文学というもののすさまじさを味わってほしい。コロンビアのどある一族のめくるめくる百年の歴史が、「マジックリアリズム」という手法によって、現実と非現実の混合した「リアルかつ奇想天外」という不思議な物語となって読者を包む。この物語を読むことで、あなたの現実認識も変わるはずだ。

経営学部 教授 竹内 綱史



『不正義とは何か』

ジュディス・シュクラー[著]；川上洋平, 沼尾恵, 松元雅和訳.-- 岩波書店, 2023.

深草図書館：深草.和顔館開架B2 321.1/シシフ

資料番号 12305009002

人が直面するさまざまな苦難は、不運なのか、それとも社会の不正義なのか。

わたしたちが苦境に立たされたとき、あるいは苦しむ人を目の当たりにしたときに湧き上がってくる「これはおかしい！」という怒り。この「不正義の感覚」こそが、民主主義で大切にされるべきだとシュクラーは説く。「正義」ではなく「不正義」に光を当て、生身の人間が抱く「不正義の感覚」から、当たり前とされてきた社会の前提を問い直すことの大切さを示してくれる1冊です。

法学部 教授 橋本 祐子



『自治体は何のためにあるのか—〈地域活性化〉を問い直す』

今井照 [著]. -- 岩波書店, 2025

深草図書館：文庫・新書 081/イワナ/2092
資料番号：12500034757

2000年に地方分権改革が行われた。この改革では自治体の自己決定権を尊重する方向での改革が進められた。そのなかで機関委任事務制度が全廃され、国の自治体への関与は法律に基づく必要最小限度された。その後、自治体はどうなったのか。この本ではその後の自治体の姿が語られる。喰い物にされる自治体、復活する国の関与。それでもなお、と著者は訴える。自治体論議は私たちの生活に深く関係する。ぜひ手に取って一読いただきたい。

政策学部 教授
南島 和久



『風姿花伝・三道：現代語訳付き』

世阿弥 [著]; 竹本幹夫訳注. -- 角川学芸出版, 2009.

大宮図書館：積層開架 773/ZEA
資料番号：22305004134

「秘すれば花」——この一文で世界的に知られる『風姿花伝』は、「能」を確立した世阿弥が、能役者の教科書として15世紀に書いた著作ですが、いまでも多くの人に読まれ続けているのは、本書がたんなる演劇論の枠を超えて、自然と美と人間をめぐる普遍的思想に到達しているからです。他方、本書は「花」、すなわち「惹きつける魅力」を身につけるための実践的アドバイスも満載しています。美や人生について思索を深めたい学生も、恋愛や就職活動に役立てたいという下心のある学生も、本書から得るものは大きいはずです。

社会学部 教授
村澤 真保呂



『イシューからはじめよ：知的生産の「シンプルな本質」』

安宅和人 [著]. -- 英治出版, 2010.

瀬田図書館：本館1F開架 336.2/アカイ
資料番号：32305022492

「毎日忙しいけれど、本当にこれでいいのかな？」と不安を感じることはありませんか？私もその内の一人です。そんな皆さんに、ぜひ読んでほしいのが『イシューからはじめよ』です。この本は、「とにかく頑張り」前に「今、本当に解決すべきことは何か？」を立ち止まって考える大切さを教えてくれます。世の中にはたくさん問題がありますが、実は今すぐ解かなくていいこともたくさんあるようです。限られた時間とエネルギーを、一番大切なところに集中させる。そんな「賢い努力のコツ」を学ぶことで、研究や就活、そしてこれからの生活がぐっと楽に、充実したものになると思います。



農学部 准教授
松村 篤

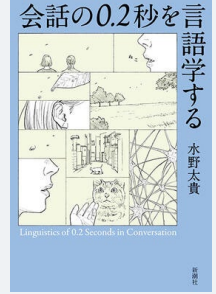
『会話の0.2秒を言語学する』

水野太貴 [著]. -- 新潮社, 2025.

深草図書館：和顔館開架B2 804/ミタカ
資料番号：12500024722

「会話の0.2秒」に注目し、発話の切り替えや相づち、沈黙の意味を、語用論や会話分析の視点からわかりやすく解き明かす一冊です。「うまく話せない」「伝わらない」と感じる場面で、何がずれ違いを生むのかを、言語学的な観点から考え直すきっかけになります。日常会話を見直すヒントにもなり、言語学が初めてでも読みやすい入門書として大学生におすすめです。

国際学部 准教授
長尾 明子



『AI原論：神の支配と人間の自由』

西垣通 [著]. -- 講談社, 2018.

深草図書館：文庫・新書 081/コウタ/672
資料番号：11800004791
瀬田図書館：本館1F文庫 081/コウタ/672
資料番号：32000001487

2022年にChatGPTが公開されて以降、一般の人々も深層学習に基づくAI技術の威力や脅威を身近に感じるようになってきたと思います。本書は、その少し前に日本の経験豊かな情報学者が著したものです。2010年代から本格化した第3次AIブームの状況下で「人間の認知や思考を模倣できるAI」や「人知を超える絶対知」の実現について、哲学および宗教的視点から論じています。生命体のもつ知能の神秘性に依拠しすぎている面や反欧米的な面もあるように感じますが、みなさんの感想はどうでしょうか。

先端理工学部 教授
木村 昌弘



『ともに食えるということ：共食にみる日本人の感性』

福田育弘 [著]. -- 教育評論社, 2021.

瀬田図書館：本館1F開架 383.8/フイト
資料番号：32105006101

本書は、家庭での食事の変遷や、割烹で作る人と食べる人とのコミュニケーション、文学作品に描かれる食事などを取り上げ、日本社会における「共食」の意味を探っています。

コロナで一変した、誰かと一緒に食事をする「共食」という一家揃っての団欒は、日本人にとって家庭における躰の場としての役割があり、楽しい団欒というよりも儀礼的性格が強かった。近年では、外食も『お一人様』といわれるように孤食化しており、食事を共にすることで人と繋がることができる、という事実は変わっていない。コロナ後の世界において、共食について考える一冊であるため、紹介します。

短期大学部教授
野口 聡子



農学部 准教授
松村 篤

大宮図書館2025年度 特別展観「日本の美 日本の芸能」開催について

・大宮図書館特別展観について

大宮図書館では、毎年秋10月18日の報恩講を挟んだ約10日間の期間、大宮キャンパス本館展示室で特別展観を開催しています。この特別展観では、それぞれの回でテーマを設定し、普段、利用者の方々が自由に閲覧することができない貴重資料を中心に、展示・公開を行ってきました。見学者は学内者にとどまらず、学外からも多くの方々にご覧いただいています。

近年では、学会とのタイアップによる企画展示を開催しています。一昨年（2023年度）は、中世文学会2023年度秋季大会が大宮キャンパスで開催されたことから、『源氏物語』や『源氏物語』に関連する和歌集などの資料を取り上げた「〈紫式部〉の物語」を開催しました。



「〈紫式部〉の物語」（2023年度）

https://opac.ryukoku.ac.jp/iwjs0005opc/htdocs/2023_murasakishikibu_prod/index.html

<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-8b41bpEV3k0>

昨年度（2024年度）は、中世文学会2024年度秋季大会の開催にあわせ、西本願寺歴代宗主の蔵書目録の1つである『御書物日記』などに記されている文学関係の書籍を辿り、『平家物語』をはじめとする軍記物語や『新勅撰和歌集』といった和歌集などを取り上げた「中世本願寺の文学—『平家物語』と和歌を中心に—」を開催しました。



「中世本願寺の文学—『平家物語』と和歌を中心に—」（2024年度）

<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-G8lrmzxqzR4>

上記の他、過年度の特別展観の詳細は、図書館HPにある「展観図録」のコーナー https://library.ryukoku.ac.jp/Guide/page_id23)にてご覧いただけます。また、近年の特別展観はWEB展観として公開しており「展観図録」のコーナー、ジャパンサーチ・ギャラリー <https://jpsearch.go.jp/gallery>)から閲覧することが可能です。上記URLよりご覧ください。

・2025年度特別展観「日本の美 日本の芸能」について

2025年度特別展観は、SNSの普及やインバウンドの増加によって世界から日本の伝統文化に注目が集まっていることや、それに呼応するように、国内においても日本文化を見直そうとする気運が高まっていることから、テーマを「日本の美 日本の芸能」として、10月15日（水）～23日（木）の期間（10月19日（日）休館）に開催しました。



「日本の美 日本の芸能」（2025年度）

今回の特別展観では、「第1章 華道・香道・茶道」「第2章 画（え）」「第3章 書（しょ）」「第4章 能・狂言・歌舞伎」の4つの章から構成され、第1章では「池坊花百観図」をはじめとする華道・香道・茶道に関連する資料、第2章では「狩野派習画卷」をはじめとする山景図や浮世絵、絵手本などの資料、第3章では「五色手鏡」をはじめとする書に関する資料、第4章では「絵本姉妹達大礎（えほんあねいもとだてのおおきど）」をはじめとする能・狂言・歌舞伎に関連する資料を展示いたしました。



「池坊花百観図」



「狩野派習画卷」



「五色手鏡」



「絵本姉妹達大礎」

特別展観は、学内の利用者をはじめ、学外の方や海外の方までご覧いただき、「『書』のコーナーが興味深かった」「映画の影響もあり特に歌舞伎の展示を興味深く拝見した」などの感想をいただき、盛会のうちに終えることができました。

2025年度特別展観は終了しましたが、展示内容につきましては、ジャパンサーチのギャラリーで公開しています。ギャラリーでは、展示された資料のほとんどが、全頁閲覧できます。特別展観を見逃された方、資料をもっと詳しく見たいという方は、ぜひ下記URLよりご覧ください。



<https://jpsearch.go.jp/gallery/libryukoku-4nk87azQ12G>

2025年度ライブラリーサポーターのこの一年

①「ライブラリーサポーター」とは

私たちライブラリーサポーターは龍谷大学深草図書館を拠点としたボランティア団体です。学生にとって親しみやすい図書館づくりのために、季節ごとの本の展示や図書館ツアー、ビブリオバトルの運営など様々な活動を行っています。図書館での活動を通して、サポーター自身も気づきや成長を感じることでできる活動です。ボランティアスタッフですので時間的な拘束はなく、授業の合間などの空いている時間に活動を行うことができます。

(経済学部 現代経済学科 2回生 鈴木皓太)

②ライブラリーサポーター説明会：4月21日(月)

本学の図書館司書課程を受講している学生に対してライブラリーサポーター説明会を実施しました。過去にどのような活動を行っていたのか、私たちの少しの感想も伴って紹介しました。100人ほどの受講者が座っている中、緊張もしましたが質問する学生も多く、意欲である姿にいつしか緊張も解けてリラックスして紹介することができました。

来年も新規サポーターを獲得するために継続して行っていきたく思います。

(経済学部 現代経済学科 2回生 鈴木皓太)

③保護者懇談会での図書館ツアー：5月24日(土)

5月24日(土)には保護者懇談会に併せて深草図書館の案内を行いました。保護者の方に実際に図書館内を歩いてもらい、学生が利用しているサービスや設備をご案内するというイベントです。ツアーに参加された方々は自習スペースや生徒同士で交流が可能なナレッジcommons、8号館の二階にまで存在する蔵書の数々に感心された様子でした。

まだ任命式すら終わっていない1回生のライブラリーサポーターも案内役に参加。自らも図書館に慣れているわけではないのに一生懸命に案内してくれました。

(経済学部 現代経済学科 2回生 鈴木皓太)



④ライブラリーサポーター任命式：5月29日(木)

5月29日(木)には深草図書館のナレッジcommonsでライブラリーサポーターの任命式が行われました。私もライブラリーサポーターのリーダーとして一言挨拶を行いました。さすが緊張しました。今年度から新しく13名の方がライブラリーサポーターとして共に活動していただくこととなりました。ライブラリーサポーターの活動に興味を持って参加してくださった方ばかりですのでこれからの活動が楽しみであると同時に先輩として恥じない動きをするための決意を新たにしました。

(経済学部 現代経済学科 2回生 鈴木皓太)



⑤展観（梅雨）：6月30日～7月30日

前期では「雨」をテーマにした展観を行いました。10冊分の展観POPが書かれたのもそうですが、どれも本の内容が気になってしまう書かれ方をしているように感じました。一口に「雨」をテーマにした本と言っても情景描写としての雨や気象学的な雨、もしくは雨の日を楽しむための本などバリエーションに富んだ内容ばかりでした。

これを機に私も雨が降る景色を背景にしながら静かな部屋で読書に勤しんでみようと思いました。

（経済学部 現代経済学科 2回生 鈴木皓太）



⑦全国学生協働サミット：10月24日（金）

10月24日（金）に開催された全国学生協働サミットに、龍谷大学ライブラリーサポーターとして参加させていただきました。そこで他大学の活動報告を聞き、自校の活動を発表する機会もいただきました。龍谷大学ライブラリーサポーターは、龍谷大学図書館を盛り上げるためにイベント企画を行っています。しかし、例えば広島修道大学図書館ピア・サポーターは、イベント企画だけに留まらず、司書の業務内容に含まれることも行って、活動の幅の広さを感じました。図書を通じて、学生の交流を広げる活動として独自の書籍レビューを作成している大学もありました。また、書籍のイメージ連想をテーマとした棚を作成するという新たな試みにも触れることができました。これらの取り組みを参考にしつつ、龍谷大学らしいライブラリーサポーターへとこれからも邁進していきたいです。

また、時同じく図書館総合展では、次世代の図書館像を垣間見ることができました。非常に貴重な1日を過ごしました。

（文学部 哲学科 4回生
櫻井萌乃）



⑥オープンキャンパス：8月2日（土）

今年のオープンキャンパスでは、図書館でクイズラリーを実施しました。参加者の方には、館内を歩きながら答えを探す形式のクイズに挑戦していただきました。

今年の問題は、図書館の設備や特徴に関する内容が中心でした。たとえば、光庭に敷かれている硯石が宮城県職人によって加工されたものであることや、学生が借りられる本の冊数など、実際に館内を見て回ることで答えが分かるようになっています。

普段は静かな図書館ですが、オープンキャンパスの日は少し特別で、参加者とサポーターの積極的な交流も見られました。龍谷大学図書館の、学びの場としての魅力を直接伝えられる貴重な機会となりました。

（文学部 英語英米文学科 1回生 矢鍋里々子）



⑧大学生ビブリオバトル：10月25日（土）

10月25日(土)に和顔館一階アクティビティホールにて全国大学ビブリオバトル2025関西Bブロック決戦が行われました。今回は、龍谷大学から2名、他大学から2名の方が参加されました。今大会ではライブラリーサポーター2名で司会進行を行いました。バトルの方々の発表を聞き、ちくわの小道具を準備していたり、身振り手振りを上手く使い紹介をされていたり、とても工夫が凝らされている発表だったという印象を受けました。引き込まれるような発表でしたので、チャンプ本に選ばれた小川仁志著『「ドラえもん」で哲学する 物事の見方が変わるヒント』は勿論のこと、紹介されたどの作品も読みたいという気持ちを掻き立てられました。

（文学部 歴史学科 2回生 浜田和佳奈）



⑨展観（秋）：10月27日～11月30日

後期の1回目の展観のテーマは「秋」です。秋といえど食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋など様々な秋が存在しますが皆さんはどのような秋を想像したでしょうか？ハロウィンやお彼岸などのイベントごとにも事欠かないですね。

さて、今回の秋展観でも、『どんぐりと山猫』のような童話から『かぼちゃぞろぞろ』のような絵本。はたまた『あなたのための短歌集』のような短歌集など幅広いジャンルの本たちが集まりました。秋は本の種類にも内容も豊富なためどのような本を読むか迷ってしまいますね。

(経済学部 現代経済学科
2回生 鈴木皓太)



⑪高校生ビブリオバトル：11月15日（土）

11月15日(土)に開催された全国高等学校ビブリオバトル京都府大会にて、司会進行を含めた運営をライブラリーサポーターが務めました。

ビブリオバトルでは、発表を聞いた参加者の投票によってチャンプ本、つまり「より多くの参加者が読みたいと思った本」が決まります。そのため、バトルと呼ばれる発表者は、5分という短い時間で紹介する本の魅力を参加者に伝え、興味を持ってもらう必要があります。「自分が面白いと思った本を制限時間内で紹介する」というシンプルなルールを敷くビブリオバトルですが、発表内では「紹介」でありながらそれにとどまらない工夫が凝らされる、奥深い取り組みです。

今回の大会では、バトルの「『好き』を伝えたい」「面白そうだと思ってほしい」という熱意がひしひしと伝わる発表の数々に圧倒されるばかりでした。

今年の優勝(チャンプ本)には『全員犯人、だけど被害者、しかも探偵』が選出されました。「爽やかな裏切り」があるミステリー、とバトルが推す一冊、一度手に取ってみたいはいかがでしょうか。

(文学部 日本語日本文学科 1回生 織田久美子)



⑩絵本ミニビブリオバトル：11月8日（土）

11月8日に梅小路公園で開催された京都ブックパークで絵本ミニビブリオバトルが行われました。他大学からの学生2名に加えて、本学のライブラリーサポーター2名がバトルとして出場しました。私は『じごくのそうべえ』を紹介しました。

通常のビブリオバトルと違い、絵本を紹介することや、小さな子どもにも伝わるように工夫することに難しさを感じましたが、バトルもオーディエンスも笑顔で楽しそうにしていたのが印象的でした。観戦者の投票の結果、私の紹介した『じごくのそうべえ』がチャンプ本に選ばれることとなり、貴重な経験となりました。

(文学部 日本語日本文学科 1回生 藤崎愛)

⑫留学生クラスとの交流会：12月19日（金）

12月19日、深草キャンパスにて留学生クラスとの交流会を行いました。

今回はお正月を間近に控え、日本のお正月文化について紹介するとともに、留学生の皆さんからも母国のお正月文化について教えていただきました。年越しや初詣、食事などにさまざまな違いがあり、日本と海外の文化の違いを知る貴重な機会となりました。台湾や中国出身の留学生が参加しており、異文化理解を深めることができました。また、ライブラリーサポーターの間でも出身地域による違いがあり、興味深い発見がありました。

その後はグループに分かれ、「福笑い」や「すごろく」を行いました。限られた時間ではありましたが、終始和やかな雰囲気の中で交流が進み、留学生の方々からは「母国でも紹介したい」という声もいただき、非常に嬉しく思いました。本活動を通して、互いの文化を知り、尊重し合うことの大切さを実感しました。

留学生とともに、文化を尊重し合える有意義で温かな時間となりました。

(経営学部 経営学科 2回生 吉村美咲)



⑬中学生ビブリオバトル：12月20日（土）

全国中学ビブリオバトルの京都大会が、深草キャンパス和顔館にて開催されました。ビブリオバトルは、発表者による本のプレゼンテーションから始まります。その後「どの本が1番読みたくなったか」という観点から投票を行い、チャンプ本を決定します。今回、私たちライブラリーサポーターは主に司会・進行を務めました。

今年は、11校17名に参加していただきました。一人一人の熱心に語る姿が非常に印象的で、5分という短時間の発表の中でも言葉選びに各々の個性が出ている点には大変感心しました。会場全体を巻き込むようなパフォーマンスには大学生として学ぶところが多く、刺激を受けました。

（文学部 日本語日本文学科 3回生 森優奈）



⑭展観（推し本）：1月14日～3月31日

2025年度最後の展観テーマは「推し本」でした。「推し本」というテーマは前年度も行ったのですが新しくライブラリーサポーターが増えたこと、この一年でさらに本を読んだこともあって今年も開催することになりました。

我々ライブラリーサポーターが今までに読んだ本の中でほかの人に読んでもらいたい、他の人に紹介したいという本を今回ピックアップさせていただきました。「風と共に去りぬ」や「十二夜」などの名作ぞろいの展観になったと思います。

（経済学部 現代経済学科 2回生 鈴木皓太）



⑮本願寺中央幼稚園での紙芝居公演：2月27日（金）

2月27日に本願寺中央幼稚園で年中組の子供たちを相手に紙芝居『親鸞さま』を上演しました。本願寺中央幼稚園への訪問は7年ぶりの3回目となっています。

『親鸞さま』の紙芝居は対象年齢が小学生用となっていたため、上演にあたり幼稚園児にも分かるように内容の削減や理解しやすい表現に変えたりしました。また、内容の理解を深めるために紙芝居に沿った〇×クイズも行いました。そして紙芝居を聞いてくれたお礼に折り紙で作ったクローバーや鶴を渡すと喜んでくれて嬉しかったです。

幼稚園児に対する接し方や幼児教育を専門に学んできたわけではなかったのが最初は不安でしたが、触れ合っているうちにそのような不安も消し飛んでしまいました。そして、このような貴重な経験をすることができてよかったです。

（経済学部 現代経済学科 2回生 鈴木皓太）



戦後80年企画 対談と朗読「戦争記録を伝える」

2026年は戦後80年の節目の年であったが、11月17日に図書館、宗教部、龍谷エクステンションセンターが共催し、「戦争記録を伝える」と題する企画を実施した。本企画は、大学に保存されてきた戦争関連資料および証言をもとに、戦時下における大学の機能や学生の置かれた状況を再検討し、現在および将来の平和への視座を得ることを目的としていた。学生を中心に教職員などWeb参加を含めると430名を超える参加者があり、戦争期の記録を伝える意義が共有される貴重な機会となった。

戦時下の統制と大学の変質

対談の第1部では、赤松徹眞名誉教授（元学長）により、1930年代以降に強化された国家統制が大学および本願寺教団に及ぼした影響について詳細な解説がなされた。国体思想を基盤とした政治的動員の強化により、批判的言説や独立した学問活動は制限を受け、龍谷大学においても宗教的典籍である『教行信証』の特定語句が「不敬」に当たると判断され伏字化される等、教学領域に直接の統制が及んでいた事例が示された。また、1940年には教団内部において「聖教の拝読ならびに引用の心得」が発出され、天皇や皇室に関わる文字の使用自粛など教学の自由は著しく制限されることになる。赤松氏が戦後も伏字が残存する教科書を使用せざるを得なかった経験を述懐したことは、統制の影響が戦後期にも継続していた事実を裏付けるものであり、学問的自由の脆弱性について改めて認識を促す内容であった。

『龍谷大学戦没者名簿』に記録された個人史

第2部では、新田光子名誉教授（元図書館長）が『龍谷大学戦没者名簿』の編纂過程を報告した。同名簿は、戦争により命を落とした301名の学生・教職員の学籍情報・所属・戦没状況を、一人一ページの等幅形式で記録したものである。調査では、学籍簿を精査するのみならず、遺族からの証言収集や写真提供が積極的に行われ、遺族宅に赴いて唯一残された写真を撮影した事例も紹介された。戦没地は中国、フィリピン、ビルマを中心として広範に及び、とりわけ終戦間際の1945年に戦没者が集中している点は、当時の学生が置かれた極めて過酷な環境を物語るものである。新田氏は、個々の記録を丹念に保存し、後世に継承する作業の重要性を強調し、それらの記録が単なる歴史資料ではなく、「生きた個人史」であることを指摘した。



朗読が呼び起こす戦没者の最期の臨場性

続いて行われた朗読では、前進座俳優・浜名実貴氏が、本学戦没者の一人である金丸玄真氏の記録と、それを題材とした詩人・丸山豊の著作『月白の道』の一節を朗読した。金丸氏は25歳でビルマにて戦死しており、その最期の描写は当時の前線の実態を物語るものである。朗読によって文字情報が音声として再構成されることで、記録がもつ臨場性が高まり、参加者は当時の戦没者の精神的状況や環境をより具体的に想像することが可能となった。



図書館に残る戦時下の業務記録

併催された深草図書館の企画展「アジア・太平洋戦争下の龍谷大学図書館」では、思想統制および検閲に関する文書、勤労奉仕に関連して設置された出張文庫、軍事文庫の運営記録等が展示された。また、空襲による資料消失を回避するため、貴重書を日野誕生院へ疎開させた記録も公開され、トラック一台の運賃を27円4銭と記すなど、事務文書の細部が当時の図書館業務の緊張性を具体的に示している。これらの資料は外形的には事務的記録であるが、戦争期の大学図書館の役割とその実践を復元する上で重要な一次資料となっている。

記録の継承と今日的意義

本企画は、戦争を抽象的な歴史事象としてではなく、本学の学生・教職員が実際に経験した具体的現実として再認識する契機を提供した。戦争を直接知らない世代が多数を占める現代において、大学に保存される記録を継承し、それらを主体的に読み解く行為は、平和の価値を再確認し未来に伝達するうえで不可欠である。静穏に保存されてきた資料群は、利用者がそれに向き合うことで初めて意味を発し、歴史的記憶として次世代へ継承される。本企画はその重要性を改めて示すものとなった。



2025年度の館内展観について ～こんな展示をやっていました～（後期展示）

前回「来・ぶらり」72号に続き、今回は、後期（9月～3月）に開催されました龍谷ミュージアムとの連携展示、教学企画部ライティングサポートセンターとの企画展示を紹介します。

・図書館×龍谷ミュージアム連携展示

龍谷ミュージアムで開催された秋季特別展観「仏教と夢」との連携展示を行いました。展示期間は、2025年9月24日（水）～11月21日（金）です。今回のテーマ「仏教と夢」は、だれもがみたことがある夢が、仏教ではどのように扱われてきたかを紹介する内容でした。

図書館では、釈迦や高僧の夢にまつわる逸話に関連した資料として、奈良時代の元興寺の学僧智光が夢で極楽に至り、その光景を描かせた「智光曼荼羅」の解説書「智光曼荼羅合讚」（ちこうまんだらがっさん）などを各館の展示コーナーで展示しました。



連携展示「仏教と夢」ポスター



「智光曼荼羅合讚」（江戸時代）

・図書館×ライティングサポートセンター連携展示 「令和の米騒動」から何を考える？」

図書館ではライティングサポートセンターと連携し、「令和の米騒動」をテーマに連携展示を行いました。展示期間は2025年11月5日（水）～2026年1月19日（月）で、深草・瀬田・大宮の3図書館同時展示を行いました。

近年のニュースを振り返るとき、最も身近な出来事の一つとし米の高騰が挙げられるでしょう。この問題は2024年から「令和の米騒動」と言われ、2021年と比べて、米の価格は一時2倍以上になりました。

「令和の米騒動」は、減反政策や備蓄米を放出した食料安全保障、物流や転売、気候変動の影響など、さまざまな問題を出させました。元号を冠して歴史的な出来事に連ねるとらえ方の根底には、日本人と米との精神的なつながりを重視する見方が横たわっているようです。そもそもこのような見方自体に問題があるのかもしれませんが。私たちにとって米とは何かをあらためて考えてみるよい機会として開催いたしました。

図書館 × ライティングサポートセンター

「令和の米騒動」から何を考える？

今年のニュースを振り返るとき、最も身近な出来事の一つとしてコメの高騰が挙げられるでしょう。この問題は昨年「令和の米騒動」と言われ、2021年と比べて、今年は2倍以上になりました。このため主食をコメからパンや麺類などにしたという人もいるのではないでしょうか。

「令和の米騒動」は、減反政策や備蓄米を放出した食料安全保障、物流や転売、気候変動の影響など、さまざまな問題を出させました。元号を冠して歴史的な出来事に連ねるとらえ方の根底には、日本人とコメとの精神的なつながりを重視する見方が横たわっているようです。そもそもこのような見方自体に問題があるのかもしれませんが。私たちにとってコメとは何かをあらためて考えてみるよい機会です。あなたは「令和の米騒動」から何を考えますか？

図書館展示について

展示期間 2025年11月5日（水）～2026年1月19日（月）
 展示場所 深草図書館和館2階 展観コーナーA
 大宮図書館2階 中央階段付近
 瀬田図書館本館地下1階 展観コーナーB

ライティングサポートセンターは、「読み・書き・考え」にかかわって、何でも相談できる場所です。対応するのは、大学関係です。お気軽にご相談ください。

ライティングサポートセンターについて

開催日時 10月1日（水）～1月19日（月）11:30～16:00（予約）
 場所・曜日 深草 和館2F スチューデントコモンズ 月～金
 大宮 東 2F スチューデントコモンズ 火・水・金
 瀬田 智光館2F スチューデントコモンズ 月・水・木
 対象・オンラインで相談対応を行っています。
 オンラインについては予約が必要です。

ライティングサポートセンターHP

<https://www.ryukyuu.ac.jp/writing-support/>

※図書館×ライティングサポートセンター連携展示
「令和の米騒動」から何を考える？」ポスター

・その他、こんな展示もやっていました。

深草・大宮・瀬田の各館で、いろいろなテーマにより、各館の蔵書を活用した館内展示を行っています。2025年後期（9月～3月）の館内展示を一覧にご紹介します。

○大宮図書館

開催期間	テーマ
9月～10月	<u>「色彩で読むところと文化」展</u>
10月～1月	<u>「卒論」展</u>
12月	<u>「北村季吟 俳諧と歌」</u>
1月	<u>「親鸞聖人～御遺徳を伝える～」</u>
2月～3月	<u>「眠れる図書館の資料たち11」</u>
2月～4月上旬	<u>「外カラ見タ日本」</u>



「色彩で読むところと文化」展

○深草図書館

開催期間	テーマ
9月～12月	<u>「まずはこのシリーズ！学びの第一歩」展</u>
9月～1月	<u>「絵本表現の最前線」展</u>
10月～11月	<u>「経済学部教員の著作」展</u>
12月～1月	<u>経済学部イベント「フィルムが紡ぐ老舗の未来」連携展示</u>
12月～2月	<u>「来・ぶらり72号 龍大生のお薦め本」展</u>
12月～2月	<u>「推理作家 大門剛明 著作」展（龍谷大学卒業生）</u>



「来・ぶらり72号 龍大生のお薦め本」展

○瀬田図書館

開催期間	テーマ
10月～11月	<u>ジョナサン・スウィフト没後280周年</u>
10月～11月	<u>Stop and Smell the Roses</u>
12月～1月	<u>野坂昭如没後10周年</u>
12月～1月	<u>作家のデビュー作×ほんのまくら展</u>
2月～3月	<u>あなたの就活 応援します</u>



「あなたの就活 応援します」展